

2008 年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

関西学院では、学校教育法の改正を契機として初等部・中学部・高等部が互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価（以下、自己点検・評価）を実施する制度を構築しました。

その第1回目である2008年度は、それぞれの学校が共通の評価項目として「教育課程・学習指導」「生徒指導」「保健管理」「教育環境整備」を選び、さらに中学部は独自項目に「キリスト教主義教育の実践」「特色ある教育の実践」を加えて実施しました。実施にあたっては、それぞれの評価項目について生徒・保護者・教員のご意見を伺うためにアンケートを行い、客観性を高める工夫をいたしました。

回答いただきましたアンケートの結果を集計し、分析したものが自己点検・評価結果として関西学院評価推進委員会（2009年3月27日）において承認されましたのでWEBサイト上で公表いたします。

関西学院中学部は自己点検・評価を通じて自らその課題を探り、その課題に誠実に向き合って改善することによって質の高い教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

次頁以降に2008年度中学部自己点検・評価結果を項目別にまとめたものを記しました。

なお上述の6つの評価項目以外に、学校全般に関して総論的に尋ねるために、生徒と保護者に対して、学校に行くのが楽しいか(楽しそうか)、また、中学部の教育に全体的に満足しているか、という2つの質問項目を加えました。その結果、生徒・保護者両者から、学校生活全般に関して満足度が高いことが分かりました。ただし、この結果に満足せず、各論部分での改善に努めていく所存です。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

2009年3月27日
関西学院中学部
部長 安田 栄三

【 教育課程・学習指導 】

生徒・保護者にとって学校生活全般は概ね満足できるものである。教育課程、授業内容は、教員・生徒・保護者すべてから良好であると評価された。これを踏まえ、各教員は教育課程の全体像を正しく把握した上で、さらに各教科での教育内容を精査し改良の工夫をしていきたい。ただ、補習等、学習面ではつまづきを覚えた生徒への措置は、今後さらに充実していく必要がある。また、学力評価においては、学外からの評価にも通用する客観的基準を盛り込んだ評価法の策定が求められる。高等部との連携に関しては、組織・教職員間の連携を強め、一貫教育をより有効に機能させるとともに、生徒・保護者に対して高等部での学校生活を視野に入れた指導を展開する必要がある。

【 生徒指導 】

「基本的社会マナー」については、挨拶や時間厳守などの面での評価の高さに比して、美化・整理整頓の面が不十分という結果が出た。男子校特有の結果と解釈されるが、見過ごさずに対処していくべき問題である。また、生徒の問題行動への対応について、生徒・保護者による評価が教員による評価より低く出た。それは、教員が生徒集団全体の中で問題を捉え易いのに対し、生徒・保護者は他者の情報を得にくい分、個人レベルでの評価をせざるを得ないからである。この点をふまえ、両者が乖離することないように留意していかねばならない。また「自主自律の精神の育成」面の評価がやや低いことに対しては、HR や生徒会活動の充実が求められる。

【 保健管理 】

近年、心身の問題を抱えて中学部へ入学してくる生徒が増加する傾向にある。学校には生徒個々の課題や苦しみを受け止め、生徒に必要な援助を提供できる体制がますます求められる。「身体的な健康管理」の項目で、教職員が生徒の健康状態を把握し、急病発生時には迅速に対応できるという強みを知ることができた。しかし「精神的な健康管理」では、悩みを抱える生徒の理解と対応という点で、教員に比して生徒の評価がやや低い。上記の課題への取り組みとして、各教員の生徒への関わりを検討し、さらに外部医療機関、その他の専門機関との連携をさらに強めていく必要がある。

【 教育環境整備 】

教育環境整備面について、保護者と生徒からは概ね高く評価されている。現在の設備・施設、教材・教具は中学校設置基準を満たしているが、新しい時代の多様な教育に対応するため、設備・施設、教材・教具のさらなる充実、及び、教員の OA 機器活用能力の向上や適切な情報倫理の共有が課題として挙げられる。改善の方策として、ハード面では 2011 年の新校舎完成に向けて充実を図り、ソフト面では教員の研修を行う。

【 キリスト教主義教育の実践 】

毎朝の礼拝ならびに聖書科の授業などを中心に全学的な教育プログラムとして展開されているキリスト教主義教育の現状に対し、教職員のみならず生徒・保護者の立場からも評価が高かった。礼拝では全教員が講話を担当するのに加え、生徒たちが主体的に取り組む生徒礼拝等も定着し、また保護者に対しても直接的にキリスト教主義教育活動に接する機会が設けられている。これらのことが評価されたと考えられる。今後も、受け継がれてきた精神を維持しつつも、時代に即応したキリスト教主義教育の形を模索し、生徒と保護者、そして教職員の生き方の基盤となり、目標となるような教育を展開していきたい。

【 特色ある教育の実践 】

中学部の特色ある教育が概ね高く評価されている結果が出た。読書・図書館、芸術、体育、キャンプ・体験的学習の各分野において、充実したプログラムが展開されているといえる。その中であって、「英語・国際理解教育」への評価が相対的にやや低く、特に海外との相互交流に物足りなさを感じている生徒が多い。海外での研修プログラムが 2006 年度より「インド親善訪問旅行」の一つだけとなったことの影響が考えられるが、今後、様々な形で異文化への興味付けを図る手立てが必要とされる。